

WHAT'S Bunka

"What's Bunka" by Kakamigahara Mirai Culture Foundation.

No.02
TAKE FREE



——日々も青春も、風が運んだ。

まちの風景。

日々、何気なく通る場所には、当たり前すぎて気付かなかった風景があるかもしれません。このコーナーでは、各務原初心者の編集部員が、まちを歩いて「面白いなあ」と思った風景をご紹介します。



お散歩した時期は向日葵が咲く季節だった。

とある会社の前にある木、この木なんの木になる木。



スナック アイ・愛

ネーミングといい、フォントといい、どこか惹かれてしまうインパクトがある。



昔は「6」軒しか家になかったのだろうか。今度、図書館で調べてみよう。



通りに並ぶ街灯、六軒通りのロゴが描かれている。何回も見ていると愛着が湧いてくる。



通りの途中に現れる、小学校へと続く歩道。地面には動物のタイル、見上げるとアーチがあったり、歩いていて楽しい。



タイミングが合うと、カラスにも会えるかも



私の文化。

文化財団の職員が毎号交代で「文化」について語る「私の文化」。2回目の担当は、グループ長・廣瀬（ちなみに、財団には「廣瀬」が2人いますので、電話やメールをする時はお気を付けて）。DJという異色の経験を持ち、OFTを中心に様々な企画を成し遂げてきました。3ページ目のインタビューでも、学生さんや先生へ「文化」について伺っています。いろいろな人にとっての「文化」、どれも大切な視点であると感じました。「文化の秋」、皆さんはどのように過ごしますか？

私にとって文化とは、「少しでも毎日をつらつらにしてくれるもの」だと考えます。特に、日々の生活の中で、わたしたちが接している本や音楽、ファッションなどの様々なカルチャーは、多くの方にとって、とても馴染みがあるものではないでしょうか。

そして、その様々なカルチャーの中から如何に自分流にチョイスし、切り取っていくのが楽しみであり、将来の自己形成につながっていくものであると感じます。

このようにポップカルチャーは、多くの人に影響を与えながら、わたしたちの日常に彩りを加えてくれます。

ポップカルチャーを享受していると、時に異なる文化がクロスオーバーし、新たな文化が生まれる場面に出会うときがあります。そのときのエネルギーや興奮は、すさまじく、そのまま時代に反映されたりするのも文化の面白いところです。

さて、この秋、文化財団の自主事業として、「歌舞伎を観るということ」というトークイベントを企画しました。「ラップ」や「パンク」という音楽的な出自がある、いとうせいこうさん、町田康さんのお二人に、「私と古典」をテーマに話していただきます。

文・廣瀬 真一

INFO: 企画制作 / 発行: かかみがはら未来文化財団

発行日: 2022年11月3日
アートディレクション: 北住尚己 (株式会社エコムクリエーション)
デザイン: 本瀬玄真 (株式会社エコムクリエーション), 山下佳苗 (granne design)
テキスト制作: 河合ほのか (かかみがはら未来文化財団)
印刷: 株式会社イナバ印刷社
スペシャルサンクス: 各務原市民のみなさま



Twitter



Instagram



MEMO:

学生さんにインタビューを行い、自分の好きなことを向きに頑張る純粋な姿は、大人が一番見習う必要があるのではないのでしょうか。私も2年前までは学生でしたが、この2年間で生活は大きく変わり、学び続ける姿勢・好奇心が薄れてきているように感じます。学生に負けぬよう、私も初心の気持ちを忘れず、毎日を送っていきたく思います。

かかみの音楽演奏会

主催 各務原ロータリークラブ



文化財団では、若者達へ様々な角度から文化にふれ、このまちの面白さに気づききっかけをつくるため、演奏会や美術展などを開催しています。今回は、財団の企画に参加いただいた桜丘中学校の吹奏楽部・岐阜各務野高等学校の皆さんへ活動に参加した感想や、文化に対する思いについてインタビューを行いました！

Interview

文化財団では、若者達へ様々な角度から文化にふれ、このまちの面白さに気づききっかけをつくるため、演奏会や美術展などを開催しています。今回は、財団の企画に参加いただいた桜丘中学校の吹奏楽部・岐阜各務野高等学校の皆さんへ活動に参加した感想や、文化に対する思いについてインタビューを行いました！

桜丘中学校インタビュー



インタビュー
 部長 橋爪翔栄さん
 副部長 藤井優里さん
 顧問 平林拓也先生

プロによる演奏に触れ、普段の練習だけでは得られない表現力・演奏技術の向上につなげるため、航空自衛隊中部航空音楽隊を招き、市内全8中学校吹奏楽部を対象に、5月28日「楽器別講習会」、5月29日「中部航空音楽隊コンサート」を行いました。その1ヶ月後の7月10日には、吹奏楽部員の発表の舞台を経験する場として3年ぶりに「かかみの音楽演奏会」を開催しました。講習会や発表会を通し、部員達は何を感じたのか。桜丘中学校吹奏楽部の部長・橋爪さん（チューバ担当）、副部長・藤井さん（フルート担当）、顧問・平林先生から話を伺いました。

岐阜各務野高等学校インタビュー



インタビュー
 山口美羽さん
 後藤誠司先生

12月に「第32回各務原市高校生美術展」を開催するにあたり、岐阜各務野高等学校情報科2年生山口美羽さんに美術展のポスターを制作していただきました。女の子が合掌するインパクトのあるポスター。制作に対する思いなど、後藤先生を交えてお話を伺いました！

Activity Report

活動報告

文化財団が2月に発足し、4月からは本格始動。そして、6月18日・19日の2日間にわたり、初の自主事業企画『山崎バナラの活弁大絵巻 in 村国座』・「OUR FAVORITE THINGS reprise」を開催しました。会場は、国指定重要有形民俗文化財に指定される歌舞伎舞台「村国座」です。ジャンルが異なる2つの企画がどのように村国座を彩ったのか振り返っていきます。

2022.6.18 山崎バナラの活弁大絵巻 in 村国座

みなさん“活弁”はご存知ですか？ 無声映画だった時代に、スクリーンの横で解説を行っていたのが“活弁士”。今回は、活動写真弁士として活動する山崎バナラさんをお招きし、“活弁”という映画文化に「ふれる」企画として開催しました。今回は、「昼の部」「夜の部」「パディ編」と、通常は昼の部と夜の部は同じ演目を行うところを、初の試みとして異なる演目でお届けいただきました！

昼の部

“活弁”を初めて見る方に向けて映画の歴史から、なぜバナラさんが活弁士になったかという作品『活動写真いまむかし』からスタート。なんと、大正琴とピアノを使う活弁士はバナラさんだけだそうです！ 上映した作品は、『豪傑児雷也』・「キートンの探偵学入門」の2本。セリフを語るだけではなく、どのように撮影したのか、出演者の紹介など、裏話も交えてお話いただきました。

夜の部

夜の部の最初の映画は『争闘阿修羅羅』からスタート。続く、『ローレル&ハーディ2本立て 山羊の失恋/リパティ』では、2つの別々の映画を、1つの超大作映画にしてしまうという、活弁士だからこそできる上映方法。ハラハラドキドキな展開や、思わず突っ込みそうになるコメディ要素まで、バナラさんの「声」と「ピアノ」と「大正琴」だけで、映画の世界観を表現されていました。活弁士の語りの凄さを実感しました。



感想

同じ映画でも、活弁士の台本と語り方によっては、笑い話になったり、悲劇的にも、ミステリー的な要素を交えたりと、様々な解釈で映画を見ることが出来ます。「言葉」や「声」、「音楽」が持つ伝える力を感じました。そして、今回の公演が行われたのは映画館でも、ホールでもない「村国座」という歌舞伎舞台。舞台と客席の距離が近く、木の香りが漂う空間で体感する映画は、ひと味違う特別な感じがしました。

2022.6.19 OUR FAVORITE THINGS reprise

各務原市の夏の音楽の始まりと言えばOUR FAVORITE THINGS (通称：OFT)。2009年の村国座から始まり、2014年からは河川環境楽園にて開催。新型コロナウイルスの影響で昨年からは、OFTの原点である村国座にてスピノフ企画として開催しています。今年の出演アーティストは、「澤部渡（スカート）」「王舟」「豊野 彩加（Homecomings）」のありそうでなかった3名の組合せ。個性溢れるギターの弾き語り、村国座を盛り上げていただきました。



感想

音楽フェスでは体感できない、あえて席で聴き入ってもらうスタイルはギターの音色や歌詞の一つ一つに、より意識を向けて聴くことができたのではないのでしょうか。また、木のぬくもりを直接感じることで、より心落ち着く空間を創り上げているのかもしれない。

歌舞伎舞台と聞くと馴染みがなく、きっかけがないと、普段行くこともないですね。私たちは、その一歩を踏み出すきっかけを「文化」でつくりたい。今後も、村国座にて様々なイベントを企画していきます。WEBサイトやSNS、チラシなどで日々情報発信を行っています。時々、覗きに来てもらえると嬉しいです～！

Conclusion まとめ

届かないことを学びました。ひ…前日一緒に練習した音楽隊の方が、目の前で演奏する様子を観て、生徒達が手を振っている光景に嬉しい気持ちになりました。



楽しむことを前提に音楽をやらないと、聴き手に届かないことを学びました。ひ…前日一緒に練習した音楽隊の方が、目の前で演奏する様子を観て、生徒達が手を振っている光景に嬉しい気持ちになりました。

ポスターのコンセプトについてや…「芸術は爆発だ」という様子を表現しました。また、才能が開花するという意味を込めて、花を描きました。明るい印象ですが、色の使い方について聞かせてください。や…美術展と聞くところ落ち着いたイメージですが、高校生美術展ということで、高校生ならではの明るさを表現したくて、ピンクなど明るい色を使いました。や…Adobe Frescoというソフトを使用し、絶妙にいい混ぜ方をしていると思います。制作するうえで、大変だったことはありますか？ や…告知のポスターを作るのが初めてだったので、どうしたら情報が相手に伝わるのか、絵と文字のバランスを考えることが難しかったです。いろんなポスターを検索して、配置の仕方を参考にし、相手が何を求めているのか考えながら作りました。ご…普段は物静かですが、作品に向き合ったときは熱い思いを持ちながら制作している姿を感じました。

掲載されなかったインタビュー内容をWEBサイトに公開しています！ぜひご覧ください！

【第32回各務原市高校生美術展】
 会期：12月1日(木)～12月4日(日)10:00～17:00
 ※2日(金)～19:00、4日(日)～16:00
 会場：各務原市産業文化センター1階あすかホール